



令和三年文月

城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 168名
○真剣に学ぶ生徒	2年 157名
○健康な生徒	3年 173名
	特別支援学級 8名
	全校生徒数 506名

想像力

校長 遠藤 敏恵

6月5日から始まった学校総合体育大会が、様々なドラマとともに終了しました。勝敗が決まり、さわやかな笑顔で次の目標を語る様子に、完全燃焼の清々しさを感じたり、試合終了の合図と共にその場に崩れ落ち、暫く立ち上がれない様子に、思わずもらい泣きしてしまったり…。皆さんの一生懸命な姿に、スーパープレーに、全力で仲間を応援する姿に、たくさんの感動をもらいました。県大会出場を決めた皆さん、本当におめでとう。周りの多くの仲間が引退している中で、孤独な戦いを続けている人もいると思いますが、その戦いがより一層自分を強くします。がんばれ！

先日、校内を回っていると、3年生のあるクラスで、道徳の授業を行っていました。レスリングの伊調 馨（いちょう かおり）選手に纏わる題材をもとに、「向上心」や「個性の伸長」について考える授業で、教室に入っていくと、それぞれが用意されたカードに自分の短所を記入しているところでした。授業を行っている先生の「自分が短所だと思っていることでも、他の人からみたら、長所と考えられることもあるんじゃないかな。」という問いかけに、あちらこちらで、友だちがどんな短所を書いたのか、のぞき込む姿が見られ、次第に、「優柔不断？…それって、周りのことをよく考えて気を遣えるってことだよな。」とか、「心配性？…それって、いろんな状況を考えてるってことだから、用心深いとか責任感が強いってことじゃないかな。」といった声が聞こえてきました。自分では「短所かな。」と思っていることでも、それを個性と捉え、「いいんだよ。それがあつてのきみじゃないか。」と一生懸命前向きなコメントを考えている様子は、何とも微笑ましく、心が和むと同時に、コメントをしている子どもたちの豊かな発想、想像力に驚きました。

「本当にきみは心配性だね。気にしないでやりなよ。」というのと「いろんな状況を想定しているんだね。時間も限られているから、可能性として高いものから対応を考えていこうよ。」というのでは、相手に対する印象も言われた本人のモチベーションもだいぶ変わってきます。私たちの周りには、解決しなければならない課題がたくさんありますが、一人ではどうしても太刀打ちできないこともあります。そんな時に、協働してくれる仲間を増やすには、「こう言ったら相手はどうとらえるだろう。」と想像できる力がとても大切なのです。

21日からは夏休みが始まります。まだまだコロナは収束しませんが、普段より多く使える自由な時間に、是非、新しいことに挑戦したり、本を読んだり、自分の夢への道筋を想像したりしてみてください。ミッキーマウスの生みの親であるウォルトディズニーの言葉に“**If you can dream it, you can do it.**”（もし君がそれを夢見ることができるなら、実現できる。）という一節があります。この**dream** は **imagine**（想像する、心に描く）と同じ意味で使われているのではないかなと思います。

